

(地域施策推進事業)

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主体	事業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
総務 企画部	佐藤 秀継	地域 企画課	十和田 八幡平 観光班	齋藤 隆	0186-22- 0458	観光機能合体推進事業	県、鹿角市及び小坂町 が設置した機能合体組織 のもと、観光振興に 連携して取り組むこと により、一層の誘客促進 を図り、地域の活性化 に資する。	3,557,000	負担金	①広域観光連携推進 事業 ・桜と雪の回廊観光 キャンペーン(4月18日 ～5月31日) ・紅葉と温泉キャンペ ーン(9月20日～11月9日) ・十和田湖観光推進広 域連携事業 ②インバウンド対策事 業 ・台湾・タイ・シンガポ ールの商談会に参加する 地元観光事業者への 渡航費用助成 ③教育旅行誘致事業 ・教育旅行誘致キャ ラバン (北海道・宮城県・岩手 県・首都圏の小中学校 149校訪問) ・教育旅行モニターツ アー(1校1名)	鹿角広域観 光推進会議 (県、鹿角市 及び小坂町)	観光客、 県外教育 関係者、 旅行事業 者、海外 旅行事業 者、PR 事業実施 地域住民 など	平成26年4月1日	・広域誘客では近隣県 や首都圏への情報発 信(キャンペーン2回、イ ベント10回、連携会議6 回など)、インバウンド では入込の多い東南ア ジア地域へのセールス 実施(3回)、教育旅行 では北海道及び岩手・ 宮城等の学校や旅行 代理店に積極的に誘致 活動(10回)を行ってい る。 ・依然、震災前の宿泊 客数には戻っておら ず、継続した誘客の取 組を地域から求められ ている。	機能合体組織「鹿角広域 観光推進会議」で三つの 事業を柱として、様々な情 報発信を図り各方面から の誘客を進め、地域の活 性化を目指す。
						平成26年4月1日～ 平成27年3月31日							平成27年10月21日		
総務 企画部	佐藤 秀継	地域 企画課	十和田 八幡平 観光班	齋藤 隆	0186-22- 0458	メディアPR戦略推進事業	鹿角地域への誘客、ま た隣接する青森県十和 田市や岩手県八幡平 市等との広域観光を推 進するためには、メディ アを活用した効果的な PR活動が必要となっ ている。	1,258,580	委託	・パブリシティの獲得(7 媒体、内訳:雑誌2誌、 日刊紙2紙、インター ネット3媒体) ・読者プレゼント掲載 (17社) ・メディア招聘(3名)	県	観光客	平成26年4月1日	・事業費に対して多くの 効果(広告料換算 13,224千円)を得るこ とができた。 ・パブリシティを手がけ る委託先を通すことで、 鹿角地域の個別の話 題をコアターゲットを中 心にメディア展開するこ とができ、効果的に情 報提供ができた。	観光に求められる情報が 細分化され、情報を必要 とする人に具体的に届ける 方法として、記者の視点 から読者に訴えかけるこ とができるメディアPRの 手法は効果的である。 地元観光事業者からもPR 不足の声があり、引き続 き観光客に訴求できる情 報提供を目指す。
						平成26年6月5日～ 平成27年3月31日							平成27年10月21日		

(地域施策推進事業)

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主 体	事 業 対 象 者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
総務 企画部	佐藤 秀継	地域 企画課	企画 振興班	土橋 明日弥	0186-22- 0456	鹿角「まるごと売り出し」大作戦事業	①地元農家や加工事業者と連携し、農産物・加工品等の販売を行うとともに、鹿角地域の観光PRと誘客促進を図る。 ②地産地消の意識を醸成し、地元食材の消費拡大を図る。	46,318	直営	①9月6、7日にJR秋田駅ぼほろーどにて「秋田がんぱろう市」を開催した。参加事業者7社。 ②1月24日に鹿角市十和田市民センターにて、地元食材を使用した料理教室を開催した。参加者16名。	県	地元食品事業者等、地域住民	平成26年4月1日	①イベント会場であるJR秋田駅は、県の玄関口であるため、観光客等に対し鹿角地域を広くPRすることができ、認知度アップが図られた。 ①前年度の1.3倍の売上があり、特に「かつの北限の桃」の知名度は高く、人気があった。 ①参加者からは、自らPR・販売することで、消費者の声や反応をダイレクトに伺うことができると好評を得た。 ②簡単なレシピの提案や、販売店等の周知により、地元食材を身近な食材として感じてもらった。	特産品の更なるブランド化、既存商品の磨き上げ、売り込みなどに課題があり、今後も継続した取組が必要である。
						平成26年4月1日～平成27年3月31日							平成27年10月21日		
総務 企画部	佐藤 秀継	地域 企画課	企画 振興班	土橋 明日弥	0186-22- 0456	北鹿の恵みマッチング事業	北鹿地域は特色ある農作物に恵まれているものの、それらを加工して販売する取組が弱いため、食材の県外への販路拡大や、市場を踏まえたマーケティング力の強化を図る必要がある。	384,540	直営	・8月28日にマッチング商談会参加事業者を対象としたマーケティングセミナーを秋田県北部老人福祉総合エリアにて開催した。参加事業者11社。 ・9月10日、11日に首都圏バイヤー(7社)を招聘した商談会及び現地商談会を実施した。参加事業者は商談会13社、現地商談会9社。	県	地元食品事業者等、首都圏等バイヤー	平成26年4月1日	・参加事業者が市場の評価を踏まえた商品開発や販売戦略を考える動機づけができた。 ・1件の新規成約があった。	・平成22年度より「米代の恵みマッチング事業」(県北三地域振興局合同)、平成25年度より「北鹿の恵みマッチング事業」(鹿角地域振興局、北秋田地域振興局合同)として実施してきたが、バイヤー及び事業者の参加者数が少ないことに加え、参加者が固定化しつつあり、新たな販路が広がりにくいとの声がかかれた。また、一部の地元事業者には秋田市で開催される、より大規模な商談会に参加する意欲的な動きも出てきたため、平成26年度で事業を終了する。
						①平成26年4月1日～平成27年3月31日							平成27年10月21日		

(地域施策推進事業)

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主 体	事 業 対 象 者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
農林部	齊藤 秀悦	農業振興 普及課	果樹産地 支援班	中村 佐之	0186-25- 3231	かつの北限の桃産地拡大 事業	「かつの北限の桃」の 産地拡大とブランド化を 図るため、栽培マニ ュアルの作成、栽培講習 会、リンゴとモモの共通 防除検討会の立ち上げ 等を実施する。	402,131	直営	①新規作付希望者及 び栽培初心者向けの栽 培技術講習会を各作業 時期毎に計9回開催し、 栽培技術の向上を促進 させた。 ②リンゴとモモの共通 防除体系検討会を設立 し、かつの果樹センター 圃場での実証を実施し た。 ③苗木養成技術向上 に向けて、台木・苗木 の育成方法を検討し た。苗木管理の講習会 などを通して、栽培者 の苗木づくり技術向上 を実施させた。 ④「かつの北限の桃」ブ ランド力向上のため、 消費者へのプロモー ション活動を実施した。	県	JAかつ の北限の 桃生産部 会、新規 栽培者	平成26年4月1日	①初心者向けの講習 会により、高品質なモモ を作るための基礎的な 栽培技術を学ぶことが できた。 ②リンゴとモモの共通 防除体系確立に向けて は、検討会を設立する ことで栽培者に共通防 除体系についての意識 を高めることができた。 ③苗木養成技術向上 の取組によって、生産 者が良質な苗木を確保 するための技術習得が できた。 ④プロモーション活動 を実施したことで、消費 者へ「かつの北限の桃」 ブランドが浸透した。	・面積拡大に向けた新規 作付者の確保に向けた取 組に加えて、若い新規生 産者の確保に向けた取組 も必要である。 ・生長量の多い1～3年生 樹への栽培管理技術指導 を徹底する必要がある。
						平成26年4月1日～ 平成27年3月31日							平成27年10月21日		
農林部	齊藤 秀悦	農業振興 普及課	担い手・ 経営班	鈴木 満明	0186-23- 3683	かつの牛生産拡大応 援事業	「かつの牛」の生産拡 大とブランド化を図ると ともに、地元での消費 拡大を図っていく必要 がある。	538,182	負担金・ 直営	①牛の強放牧による強 害雑草チカラシバ防除 の実証展示を行った。 ②かつの牛振興協議 会への助成。 ③鹿角管内の「かつの 牛」提供店を網羅した、 食べ歩きマップを作成 した。	県	かつの牛 飼養者、 かつの牛 振興協議 会など	平成26年4月1日	①実証展示により強放 牧によるチカラシバ防 除の効果が確認された ため、今後も取組を継 続していく。 ②かつの牛振興協議 会の独自活動が活発 化した。 ③食べ歩きマップを作 成したことで、地元住民 に対するPRが図られ、 消費拡大につながった	これまでの活動を継続し、 「かつの牛」の生産拡大及 びブランド化に取り組んで いくとともに、スーパーで 試食会を開催するなどし て、地元での「かつの牛」 の更なる認知度向上を 図っていく。
						平成26年4月1日～ 平成27年3月31日							平成27年10月21日		

## (地域施策推進事業)

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主 体	事 業 対 象 者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
福祉 環境部	相澤 寛	健康・ 予防課	健康・ 予防班	菊地 成美	0186-52- 3952	受動喫煙防止対策推 進事業	平成23年度に実施した 喫煙対策実態調査によ り、管内の事業所内 での受動喫煙防止対 策が進んでいない現状 が明らかになったこと から、生活習慣病予防 の推進のため、受動喫 煙防止対策事業を実施 する。 併せて、宿泊施設や飲 食店における取組も推 進するため、実態調査 や利用客の意識調査を 行う。	520,554 (北秋田 地域振興 局で一括 執行。内、 鹿角地域 振興局 分： 129,000 円)	直営	①「職場におけるたば こ対策オリンピック事 業」を実施し、受動喫 煙防止対策を行い、従 業員の健康づくりに取 組んでいる事業所に対 し、対策に応じた宣言 プレート(ゴールド:18、 シルバー:5、ブロンズ: 0)を付与した。 ②イベントを活用し、受 動喫煙防止及び禁煙 指導を行った(3回)。 ③宿泊施設や飲食店 等の受動喫煙防止対 策を推進するため、「お いしい空気の提供店」 観光サービス向上事業 として、宿泊施設等へ のアンケート調査、関 係者による意見交換 会、ステッカー作製・配 布等を行った。 ④事業所からの要望に 基づき、受動喫煙防止 対策に係る出前講座を 実施した(1回)。	県	管内事業 所、地域 住民及び 観光客	平成26年4月1日	③「おいしい空気の提 供店」観光サービス向 上事業で実施したアン ケート調査からは、宿 泊施設や飲食店の受 動喫煙対策の現状や 利用客の要望を知るこ とができ、今後の事業 の推進に役立った。 ③アンケート調査結果 から、喫煙者・非喫煙 者にかかわらず高い割 合で飲食店の入口で店 内が禁煙かどうかわか ることを望んでいたの で、ステッカーを作製し 希望した施設に配布し た。 ③関係者との「意見交 換会」は、事業を推進 するに当たり共通理解 を得ることができ有益 であった。	①「職場におけるたばこ 対策オリンピック事業」 は、様々な機会を捉え てPR活動を実施したが 申込みが伸び悩んだ。 来年度は労働基準監督 署と連携し、受動喫煙 防止対策助成金の情報 提供を合わせて周知す ることで申込みを増や していきたい。 ③「おいしい空気の提 供店」観光サービス向 上事業で実施したアン ケート結果から、管内 の受動喫煙対策実施情 報を取りまとめ、必要 な利用客に届けられる よう取り組んで行きた い。また、利用客の要 望を施設側に伝えるこ とで、対策の推進を図 っていく。なお、今後 も事業の推進にあたり は、関係者から意見を 聞く「意見交換会」を 継続する。
						平成26年4月1日～ 平成27年3月31日							平成27年10月21日		
総務 企画部	佐藤 秀継	地域 企画課	企画 振興班	大場 直樹	0186-22- 0456	スキーと駅伝のまち“賑 わい創出”プロジェクト (鹿角市未来づくり協働 プログラム)	鹿角市におけるスポ ーツ交流人口の拡大に よって、地域の賑わい 創出を図る必要がある。	370,673	直営	9月13日に全日本ス キー連盟の伊藤稔氏を 講師に招き、スポーツ セミナー「アスリートの ために必要なサポート とは」を鹿角市交流セ ンターにて開催した。参 加者70名。	県、鹿角市	鹿角地域 を中心と したス ポーツ競 技者及び 関係者	平成26年4月1日	スポーツセミナーには 鹿角市外の県内市町村 及び県外近隣市町村 からの参加者も多数 あり、鹿角市のスポ ーツ交流人口の拡大 に繋がる事業として 一定の効果があった。 今後は更なるスポーツ 交流人口増加のため に、首都圏などを訪 問し合宿誘致を積極 的に行っていく。	
						平成26年4月1日～ 平成27年3月31日							平成27年10月21日		
総務 企画部	佐藤 秀継	地域 企画課	企画 振興班	土橋 明日弥	0186-22- 0456	明治百年通りにぎわい 創りプロジェクト(小坂 町未来づくり協働プロ グラム)	小坂鉄道レールパーク を中心に明治百年通 り周辺に位置する小 坂鉱山事務所、康楽 館、天使館、郷土館 と連携してまちなか 観光を推進し、地域 活性化を目指す必要 がある。	313,890	直営	6月1日に小坂町天 使館にて、地域遺産 プロジェクト「米山淳 一氏と落語家・柳家 小ゑん師匠による記 念トークショー及び 鉄道落語を開催した。 来場者56名。	県	地域住民	平成26年4月1日	・小坂鉄道レールパ ークのグランドオープ ンに合わせ、賑わいを 創出することができ た。 ・住民に対する、小 坂鉄道レールパークの 知名度や魅力アップ につながった。	
						平成26年4月1日～ 平成27年3月31日							平成27年10月21日		